

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100665		
法人名	株式会社 ふれあい介護センター		
事業所名	グループホーム ふれあい国場 2 (3階)		
所在地	那覇市国場862-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和7年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100665-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100665-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和 7年 3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの個性を大切に、認知症になっても人権を尊重した対応を心がけ、職員も一緒になって協力し合える環境で共同生活を送っています。好きなことやできることを探し、ご本人のペースで過ごすゆったりした時間、法人や他事業所との合同行事へ参加など、入居者様の笑顔を応援します。2ユニットの特徴を活かし、夜間の緊急時対応やイベントなど職員が協力して対応を行うことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人理念の実現に向け、「1人1人の個性を大事にし、生きがい作りをサポート」より利用者自身でできる事はやらせてもらうことを意識し取り組んでいる。食事の配膳や下膳、おやつ作りなど利用者と一緒にいる。地域包括支援センターと協働で祭りを開催し、地域の学生や青年会、他事業所など4つ以上の団体を招き、利用者と地域住民が交流する機会を作っている。天気の良い日に近隣の散歩や建物屋上で日光浴し、気分転換を図っている。事業所はライフワークバランスを重視し、仕事の効率性を高めながら、心身の健康を保てるように取り組み、また資格取得支援や昇給制度を取り入れ、職員のやりがい作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自施設の理念を職員へミーティングで周知した。日頃から見えるところに掲示し、実践につなげられるよう努めている	開所時より掲げている理念の実現に向け、ミーティングや節目ごとに共有している。理念にある「1人1人の個性を大事にし、生きがい作りをサポート」より利用者自身でできる事はやってもらうことを意識し取り組んでいる。「家庭的でぬくもりのある環境作り」に置間や装飾で過ごしやすい空間を作り、利用者・家族の意向を大切に個別に応じた関わり方を工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括と協力し、当施設の1階が休みの日曜日を利用して、近隣住民の方が参加できる祭りを開催した。	事業所は地域包括支援センターと協働で祭りを開催し、地域の学生や青年会、他事業所など4つ以上の団体を招き、利用者や地域住民が交流する機会作りに取り組んでいる。祭りがきっかけで、参加住民からの問い合わせがあり関係性が継続している。日常生活においては散歩や買い物時に挨拶を交わすなどごく自然に近所付き合いが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常の活動をブログやSNSなどで発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録は書面にて郵送し、意見を頂けるよう調整している	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所エレベーター前のスペースに記録が保管され、いつでも閲覧できるようにしている。同業である知見者より課題改善に向けた提案があり、今年度、合同で接遇マナー研修を実施している。利用者家族の会議参加実現に働きかけているが、参加や書類郵送での意見や感想など確認が出来なかった。	利用者家族の構成員は、参加可能な方へ調整依頼を行い、会議内容の伝達についても工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築ように取り組んでいる	質問や意見を聞く場合はメールなどでこまめにやり取りをさせていただいている。	主に運営推進会議の機会に、市職員や地域包括支援センター職員より運営に関する情報や実情の共有を行い、課題に対する助言を得、改善に向けて取り組んでいる。また他市町村からの入居相談で不明な点などメールで問い合わせし、情報や助言など協力が得られている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし、実践している。年に1度は勉強会を開催し、知識の向上に努めるとともに、毎月ミーティングの際に身体拘束になりうる行為はないか話し合い、検討している。	身体拘束をしないケア実現に向け、事業所エレベーター前に身体拘束排除宣言を掲示し、研修や月例ミーティングで理解を深めている。研修では事業所の課題に即した内容を教材にし、日頃のケアの見直し機会に繋がっている。身体拘束適正化委員会は運営推進会議を活用し開催している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度は勉強会を開催し、日ごろのケアの振り返りや知識の向上に努めるとともに、毎月ミーティングの際に虐待になりうる行為はないか話し合い、検討している。	高齢者虐待の指針の整備や対策を検討する委員会の設置や開催、研修の実施が確認出来た。管理者は口調や行動を抑制するような言葉遣いになっていないか確認し、気になる職員へは個人面談を行い、適切な対応方法に努めている。今年度、他事業所と合同で接遇マナー研修を行い、高齢者虐待に対する認識を高め、予防策の理解へ取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	沖縄県認知症グループホーム協会に加盟し、研修受講をし、現場研修にも生かしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明はご家族様にも伝わりやすい言葉を選び、親切丁寧を心掛けている。後日でも質問ができるよう、ご家族様にはいつでも連絡いただけるよう伝えている。改定時も覚書を交わし説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろのコミュニケーションや面会時には様子を伝え、意見を表出しやすいよう心がけている	利用者からは日頃のコミュニケーションより要望を確認している。体操や脳トレーニングなど活動に関する要望が多く、人気の動画を活用しながら取り入れている。家族からは口頭や電話で要望あり、廊下の照明の改善に対し、本部へ検討を打診している。また、いつでも気軽に意見を表出しやすいようにLINEの活用も行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや面談を活用し、意見を聞ける時間を設けている	職員は月例ミーティングや個人面談で、業務や対応方法の改善に向け意見や提案ができる機会がある。また利用者のリクエストを反映できるように、必要な物品を法人内の事業所から借用し、個別支援の充実を図っている。ほか、関係性に配慮した勤務体制も柔軟に対応している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の昇給制度やワークライフバランス制度の登録で、仕事とプライベートの両立が出来るよう改善を図っている	事業所はライフワークバランスを重視し、仕事の効率性を高めながら、心身の健康を保てるように取り組んでいる。また資格取得支援や昇給制度を取り入れ、職員のやりがいに努めている。ハラスメント防止に向け、マニュアル整備や相談窓口の設置、研修の実施をしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修は出来るだけ参加できるよう勤務調整を行い、資格取得には福利厚生制度の活用ができるよう整備している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県認知症グループホーム協会に加盟し、会議などに参加することで他事業所管理者と顔なじみの関係を作ることができ、情報収集も行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	発する言葉だけでなく、表情や仕草なども観察しながら、安心して頂けるような関係づくりに努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時のコミュニケーションのみならず、電話連絡や、LINE、遠方の家族にはテレビ電話などを活用し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の主任ケアマネにも相談しながら、ご家族様や本人様のニーズがグループホームのサービスとマッチしているかを考え、出来る事、出来ないことも説明し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いやお膳拭き、洗濯物たたみや、花の水やりなど役割を担っていただき相互関係を築けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は出来るだけご家族様で対応して頂き、一緒に本人様を支える関係ができるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との面会など、希望があれば受けられるよう支援している。	かつて神父だった利用者の教会へ管理者が外出同行支援し、馴染みの場所で信仰者と交流実現が出来た事例がある。また知人である介護タクシーとの繋がりを把握し、関係性が途切れない様に買い物など外出の調整を行い、交流の継続支援に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状や、性格などを考慮した席の配置やコミュニケーションが取れるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了したご家族から、入居希望の方の紹介を頂くなど、終了後も相談が出来るよう入居時から意識して対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報のみならず、日ごろのコミュニケーションから吸い上げた意向を反映出来るよう心がけている	職員は普段の何気ない会話や関わりの中で思いを汲み取り、利用者ひとり一人の過去の生活スタイルを大切にケアの実践に取り組んでいる。掃除や洗濯、花木の水やりなど利用者ができる事は見守り、達成感に繋がる生きがい作りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報のみならず、日ごろのコミュニケーションから把握出来るよう心がけ、本人様が好きだったことなどサービスに反映出来る心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録から状態を把握したり、定期的なカンファレンスで情報の共有に努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはカンファレンスで意見交換をしながら共有し作成し、介護計画に反映できるよう努めている。	毎月カンファレンスで情報共有し、よりよい生活に向け、課題の抽出やケアのあり方を見直している。入居後まもない帰宅願望が強い利用者に対し、関係者で対応方法を検討し、課題解決に繋がった事例がある。また外国人利用者の支援について定期的に協議し、本人らしく暮らしを続けられるよう介護計画を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に記入し、特変などあればミーティングで共有できるよう心掛けている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の対応や、県外在住のご家族様とのLINEのやり取りなど、ニーズがあれば創出し対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同一建物内にあるデイサービスと連携し、地域資源の把握に努めている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの病院受診の支援や、状態変化があった際は訪問診療に繋がられるよう支援している。	利用者の7名は訪問診療を利用し月2回の定期診療を行っている。付き添いは施設管理者やスタッフが1名同席し、日頃の利用者の状態を報告しながら連携をとっている。他2名は入居前からのかかりつけ医に家族の対応にて通院を行っているが、施設でのバイタル情報や特記事項など記録を提供し連携を図っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、24時間相談ができる体制構築に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーとこまめに連絡を取り合い、グループホームに戻ってきた際の支援方法など検討するなど、関係づくりを行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の意向を伺い、入居後も状態に変化があった際は担当医と連携し意向の確認を行い、本人様やご家族様の希望に沿った支援ができるよう働きかけている	入居時の契約では重度化や終末期の説明を書面にて丁寧に行うことで、利用者家族への理解を周知している。実際に重度化した際には、その都度カンファレンスや訪問診療の医師も含め、施設で対応可能かの可否を判断し説明を行っている。看取りを望むご家族には施設のできることを説明し、不安が解消できるよう心がけている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度は消防へ依頼し救命救急の方法を学ぶ場を設けている。	職員の詰所には緊急時の対応や事故発生時のフローチャートが整備され、職員にも周知がなされている。年1回は近隣の福祉施設と合同で、消防署員が施設に訪問し救命救急の研修を開催している。事故ヒヤリハット報告書も職員全員で共有し、再発の防止に努め事故がないように取り組んでいる。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	年に2回の避難訓練や感染症委員会を立ち上げ万が一の時に対応できるよう努めている。今年度は法人一斉避難訓練を行った。避難場所を近くの公園とし、数名の利用者様と一緒に避難した。	業務継続計画の策定に伴い、今年度の2月に災害時避難訓練を行った。実際に職員が入居者数名を地域の指定避難場所まで連れて行ったが、道中の道路の状況や移動までの時間などの把握ができ、良い訓練が実施できた。災害時の食料など備蓄品も倉庫に保管され米、水などの準備もされている。消防の火災訓練も年2回は職員参加にて実施している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を行い、職員が意識をもって声掛けが行えるよう努めている。	職員へは利用者の人格の尊重やプライバシー保護のための接遇マニュアルを周知している。守秘義務等も就業規則に記載され、個人情報保護方針の目的などは入居契約時に入居者家族へ説明し同意を頂いている。常に利用者への声かけには配慮を行い、排泄時には羞恥心などに気をつけながらトイレ誘導を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発語だけのコミュニケーションのみならず、表情や動きをみて意思を確認できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な支援をするのではなく、一人ひとりのペースにあった支援ができるよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、鏡の前で身だしなみができるよう支援している。 みだれがあれば、話して一緒に直しなどを行っている		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の嚙下の状態に合わせた食事の提供や、食事時間の楽しい雰囲気作りに心がけている クラシックや歌謡曲など流している	昼食は配食を利用し、ご飯と味噌汁は事業所で調理し提供している。個々の食事形態は本人の飲み込みやすさに配慮し、一口大などの対応を支援している。配膳や下膳時も一緒にできる利用者に声かけ手伝ってもらったり、昼食時は職員もテーブルに同席し、一緒に食事を楽しみながら過ごすこともあり、おやつなどを利用者と一緒に作る機会も設けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録にて状態を把握できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援ができるよう、一人ひとりの機能に合った支援を行っている		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録にてそれぞれのパターンを把握できるように努めている	排泄マニュアルに沿って、本人の排泄パターンや習慣に配慮した声かけ、介助を行っている。自立の利用者にはトイレ外からの見守りを行い、羞恥心にも配慮している。夜間の介助の必要がある利用者にはオムツ等を使用するが、ポータブルトイレを使用する利用者には事故のないようベッドサイドに配置し、自立できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別記録にて水分量や食事量を把握し便秘にならない様な支援を行っている。時には担当医や薬剤師と相談しながら便秘の予防に努めている		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一度の声掛けでうまくいなくても、時間を変えたり職員を変えたりして対応している。	週2回の入浴日が設定され、全利用者の入浴を実施している。入浴マニュアルがあり個々の利用者に合わせた介助が実施され、本人が嫌がる場合には無理強いせず、時間や曜日を変更し対応、清潔に過ごせるよう支援を行っている。自立に向けて洗える部分は本人にお願いし、職員は事故にならないよう見守りを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休むだけでなく、共用スペースにあるソファや畳間も活用しながら本人様の好みにあったスペースで支援している		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導をうけながら、状態変化にいち早く気がつけるよう努めている。	服薬マニュアルがあり詰所にて薬の管理が行われている。7名の利用者は居宅療養管理指導で薬の一包化や薬剤情報など実施しており、他2名に関しては管理者が管理し職員も把握しやすいようにしている。朝・昼・夕・夜の服薬後はチェック表にて確認しているが、誤薬防止に向け徹底した職員への周知を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1度はイベントを開催したり、誕生日には誕生日会の開催など、楽しんでいただけるよう支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1名入居当初より、最後は馴染みのある場所で迎えたいと話があり、キーパーソンと一緒に検討を重ねた結果、外出時に馴染みの方々と面会できる日を設けた。 天気の良い日は屋上へ行き、日向ぼっこをしている。	職員は、天気の良い日に利用者と建物屋上で日光浴をする機会をつくっている。今年度は全員揃っての外出支援はなかったが、法人主催の祭りを施設で催した際には、建物前の駐車場に出て地域の人たちと一緒に祭りを楽しんでいた。家族と一緒に夕食などを楽しむ入居者の支援もおこなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていないが、希望があれば買い物など支援は行える		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、県外にいるご家族様と通話されている方もいらっしゃる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には窓がいくつもあり外から光が入るようになってる。トイレや風呂場は貼り紙をし、わかりやすくなっている。	リビングの共用空間では食事をしたりテレビを見てくつろげる環境がある。スタッフと利用者との距離も近く、憩いの場として活用され、レクリエーションのクイズなどに参加して楽しむ利用者も多い。リビングは明るいですが、廊下から居室へ続く動線の照明が人感センサーで消灯するタイプなので若干の薄暗さを感じるため、現在、法人に改善案を打診している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳間を活用し、いつも座っている座席以外のスペースでもくつろぐことが出来るよう環境を整えている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使っていたソファを置いたり、就寝前にテレビを見たりされている方もいる。	各居室には備え付けの収納家具が設置されているが、それ以外で本人が持ち込んだ馴染みのある家具も使用している。家族の訪問時には居室で過ごせるよう椅子やテレビなどを準備している利用者もいる。居室に備え付けのナースコールがあるが5個が故障し使用できない状況。現在、改修業者と修理の調整を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ一人で行動できるよう、室内はバリアフリーとなっており、トイレやお風呂場は貼り紙をしわかりやすくなっている		